

犠牲者 21 人を追悼し復興への誓い新たに

令和 2 年 7 月豪雨から 6 年を迎えた 7 月 5 日、市役所で犠牲者追悼式を執り行いました。遺族や関係者ら約 50 人が参列。参列者は犠牲となった 21 人に黙とうを捧げました。

松岡市長は「失われた命の重さを決して忘れず、より安全な人吉を未来へつなぐため、被災者に寄り添った支援に全身全霊で取り組む」と式辞。

また、市民を代表して追悼の言葉を述べた球磨工高 3 年の城本優星さんは「災害の記憶を風化させず、教訓を次の世代へ引き継ぐことが私たちの責任。同じ悲しみを繰り返さない社会の実現に向け、自分にできることを考え、地域の未来を支える一員として歩み続ける」と決意を新たにしました。

最後に参列者が献花し、手を合わせて犠牲者の冥福を祈りました。



▲関係者ら一人一人が献花。手を合わせ犠牲者を追悼した



▶ 3 人の犠牲者を出した下青井町では 7 月 4 日に慰霊祭を行った

石垣修理工事に伴い、人吉城跡公園への立ち入り規制をします

人吉城跡内球磨川沿いの石垣の災害復旧工事のため、園路の一部を通行止めします。

工事期間中は工事車両が通るなどご不便をお掛けしますが、ご理解とご協力をお願いします。

立ち入り禁止期間

8 月 24 日（月）～令和 9 年 3 月 31 日（水）

通行止め時間帯 終日

※土・日曜、祝日も通行できません。



通行止区間 工事箇所 危険区域

問合せ 市文化課文化財係（☎ 2 2 - 2 3 2 4）

被災者生活再建支援金（加算支援金）の申請期限を延長します

令和 2 年 7 月豪雨で住居が全壊などの被害を受け基礎支援金を申請した世帯や、住居が中規模半壊の被害を受けた世帯が、住まいを再建する場合に支給される被災者生活再建支援金（加算支援金）の申請期限を延長します。

加算支援金の支給額は、住宅の再建方法、世帯員数に応じて 18.75 万～ 200 万円です。

変更前 令和 8 年 8 月 3 日（月）

変更後 令和 9 年 8 月 3 日（火）

申請には、住宅を建設・購入、補修または賃借するときの契約書の写しが必要です。

※契約内容で追加書類が必要な場合があります。

問合せ 市福祉課福祉政策係（☎ 2 2 - 2 1 1 1 内線 1 2 6 2）

令和 7 年度のまちづくりの実施状況をまとめました

「人吉市まちなかグランドデザイン推進アクションプラン」の実現に向けて、令和 7 年度は「HITONOWA ACTION」と銘打ち、中川原公園や人吉城跡など市内各所でさまざまな社会実験を実施してきました。

今回、1 年間の実施状況をまとめた年次報告書を作成しましたので、2 次元コードからご覧ください。



▲年次報告書

問合せ 市復興支援課まちづくり推進係（☎ 2 2 - 2 1 1 1 内線 3 1 1 5）

対談 令和 7 年度のまちづくりを振り返る



人吉市長
松岡 隼人

まちづくりデザイン会議座長
熊本大学教授
星野 裕司 さん

松岡市長とまちづくりデザイン会議の座長を務める星野裕司さん（熊本大学教授）が、令和 7 年度のまちづくりの実施状況や人吉らしさを大切にしたいまちづくりなどを対談で振り返りました。

市民の反応があることがいいまちづくりへの道
松岡 社会実験を通して、住民の皆さんから「それはいいね！」という声だけでなく、「それはダメだろう」「言っていることと違う」といった厳しい声も上がるようになってきました。何もなくさらっと進むのではなく、一つ一つ取り組みに反応があることは非常にいいことだと捉えています。
星野 公共事業では、計画が進んで気付いたら物ができて

いたということがよくあります。人吉では、実験に対する具体的な要望が住民から出るようになっていきますね。
松岡 そうした生の声、時には率直な思いや切実な願いに真摯に応えることが皆さんの望むまちの形にたどり着く唯一の道だと思っています。
使ってみてから、つくる
松岡 私が一番恐れているのは、立派なものが出来上がった後に「なんでこんなものを作ったんだ」と言われ、誰にも使われないことです。だからこそ、これまでの「作るから使う」という考え方を 180 度変え、「使ってみてから作る」という過程を大切にしていきます。
星野 社会実験をやると、設計図の中では見えなかった「誰が使うのか」という具体的な姿が見えてきます。
400 年ぶりの転換点
松岡 人吉のまち割りに本格的に手を入れるのは、相良氏の時代、犬童頼安（休矣）や相良清兵衛がまちを築いた 1600 年頃から教えて、実におよそ 400 年ぶりの転換

点です。今私たちが踏み出している一歩は、今後数百年にわたって街の形を決める重大な責任を伴うものです。
星野 本来、まちは長い年月をかけて育てていくものです。災害復興という急がなければならぬ時間の流れと、数百年先を見据えるゆったりとした時間の流れのバランスをどう取るかが、今回のまちづくりの本質ですね。
松岡 私が生きている間には終わらないかもしれません。次世代に胸を張って引き継げるよう時間をかけて「人吉らしさ」を積み上げていきたいと考えています。
住民が自分たちでつくったと思えるまちへ
松岡 まちづくりに完成はありません。大切なのは、住民の皆さんが「自分たちのまちを自分たちで作った」と思える進め方です。社会実験というプロセスがあれば、形にする前に皆さんの意見を反映させることができます。
星野 住民の皆さんが、私たち専門家を「自分たちが使った」と感じるくらい、主体的に関わってくださるのが理想です。